

アチヨ～

はいしゃさんの

女神さま

毎日が刺激的!



② 知らないことが一番怖い

文・小原啓子 (歯科衛生士, マネジメントマスター)
イラスト・真砂 武

小原啓子 (おはらけいこ)

● 広島歯科衛生士専門学校卒業後、広島口腔保健センター、広島歯科衛生士専門学校教務を経て、現在フリーランス。2004年産能大学(現・産業能率大学)経営情報学部卒業、2006年広島大学大学院社会科学部専攻卒業、マネジメントマスター。DMS Hiroshima代表

今回は、毎日行っている消毒滅菌に関する話題を取り上げてみましょう。

日本歯科新聞の第1面トップに「ユニバーサルプリコーション」って何? 知っている歯科医1割以下(2005年度国立感染研調査)という記事が載りました(2006年8月1日)。実際に消毒滅菌をしているのは、歯科衛生士や助手ですから、歯科医師が知らなくてもいいのかな……。

「いや、言葉は知らなくとも、やっているはず」「う～ん、やっていてほしい」「いや、やってないのかな……?」その新聞は、業界紙といえども多くの目にふれるはず。1面トップにもってきた新聞社の勇気ある決断に拍手!

ユニバーサルプリコーションは、「すべての人の血液、体液は汚染されたものであるという前提に基づいて包括的な感染予防の対策を行う」ことで、医療を行ううえでの基本となっています。その考え方を知らないとなると、「ちゃんとできてるのかな～」という不安が必ずよぎりますよね。私は「歯科衛生士にもコスト感覚を」と述べはじめていますが、これも消毒滅菌の基本を知らなければ要注意です。

インターネット上のあるサイトでの話。「うちの院長はコスト意識が高くて、たとえば、紙練板1枚を8回使うのよ」「どうやったら8回も使えるん?」「裏表使うのよ。咬合紙だって何回も使うもん」「どうやって?」「使ったらカルテに挟んでおくの」……おいおい、何百万人の人が見てるんだぞーというなかでの会話。危ないですよ。

消毒滅菌は、もっとも患者さんにPRできる医療サービスではないでしょうか。医療における清潔感は基本です。患者さんの目の前で滅菌バックを開けるパフォーマンス、ときには必要でしょ。また鉗子で挟んだ器具の出し入れを見えるようにしてもいいでしょう。患者さんがチェアに座ってからの基本器具のセッティングも、当然ですよ。だって、喫茶店に入って通された席に水とおしぼりが置いてあったら、前の人のものだと思いますよね。歯科医院も同じです。

ずっと同じ歯科医院に勤めていたら、だんだん見えなくなることがあります。あなたの感覚は麻痺しているかもしれません。ときには新人のほうが正確な判断をしている場合があります。「うちにはうちのやり方がある」なんて堅いことを言わず、ときにはその意見を柔軟に聞き入れてみてください。専門職としての基本知識と常識は、意識しないと“非常識”に変化してしまいます。



『ユニバーサルアリコーション』とは？

すべての人の血液・体液は汚染されたものであるという前提に基づいて、包括的な感染予防の対策を行うこと。

